

大槌

from 東北

現地支援委員会

ニュースレター

「第17号」

2015年6月24日

ニュースレター第16号につづき、今号でも、岩手県大槌町の安渡地区の現在の様子をお知らせします。大槌町の安渡地区への支援は、震災後早い段階である2011年5月から盛岡教会を中心に継続されてきました。全国諸教会からも多くのボランティアの方にご参加いただきました。安渡の復興は残念ながら他の地区に比べてかなり遅れています。引き続き皆様のお祈りにおぼえていただければ幸いです。

安渡支援レポート

震災直後、2011年5月に初めて安渡を訪問してから、4年が過ぎました。震災直後は、海岸から1キロも無いのに、たまたま山の中腹に建てられていたために津波の被害を受けなかった安渡小学校が、地域一帯の人々の避難所になり、700人以上の方々が生活しておられました。

一週間が過ぎるごとに避難されていた方々の人数が変わり、私達が6月に炊出しを始めた頃には400人ほどが避難所で寝起きされていました。地域では急ピッチで仮設住宅が建設され、くじ引きで当選した順番に、被災された方々が移っていかれました。そして、8月頃には安渡小学校は避難所としての機能を終了し、小学校の運動場は整地されて仮設住宅になりました。建物はしばらく仮の公民館と保育所となり、2年前に取り壊されて更地になりました。跡地には今後公民館が建設されます。

避難所にいた安渡地区に住んでおられた方々は、大槌町全域に分散した仮設に住むようになりました。それぞれの家族が久しぶりに自分たちだけの住まいに入る事ができた反面、お隣近所は大槌の人だけでも知らない人々という生活になりました。リアス式海岸のギザギザの海岸のすぐそばにまで迫っている山。その山と海岸の間の狭い平地にあった安渡の町は、津波で全て流されました。津波が届かなかった、海岸からは距離のある場所に仮設住宅が建てられたため、そこに住んだことで、買い物にも行けず、出かけることもできず、お医者さんへ行くこともままならない生活となりました。「復興するまで2年ほど」と約束されて、仮設住宅の生活が始まりました。

それから、4年が過ぎました。耐久年数2年の予定で建てられている仮設住宅は、あちこちに不具合が出ています。数ヶ月に一度、行政の開催する「復興計画説明会」には、始めの頃にはかなりの方が出席されていましたが、今は決まった人がほんの一握りしか参加されないそうです。

「どうせ聞いても、同じ事しか言わない。予定がどんどん遅くなる事しか説明がない」とも聞きます。あと少し、あとちょっと、と日々を数えてきた90歳をすぎた方は、生きている間に普通の家に住める希望を失っています。なんとか安渡に戻りたいと願いながら、見通しが立たないことで、生活を別の場所に移す人も沢山います。どれだけの人が戻ってくるのか、元の人数の半分も無理だろう、と公民館の館長さんは言います。大槌町の中でも安渡地区は復興の速度が最も遅く、公民館の着工予定が2018年～2019年とまだ4年も先で、復興住宅の着工はまだ見えないとのこと。

盛岡教会の支援は、安渡地区の、当時の避難所支援、地域の仮設支援、そして、今は安渡公民館を拠点とした地域の方々への支援へと形を変えつつ続いてきました。今は、在宅の方々、仮設の方々あわせて、安渡公民館の関わりのある方々のためにカフェを開いています。連盟、諸教会、世界中からの沢山の方々に支えられて継続してきた私達のカフェは、大槌町で、「バプテストカフェ」と呼ばれるようになりました。クリスマスには「キリストさんのお祭りだから」とクリスマスのメッセージを語ることを許可され、イースターには卵を配りながら、希望を語ることをゆるされています。ゴスペルや讃美歌のコンサートも喜んで受け入れてくださっています。多くの方々に支えられて、何よりも地域の方々に守られて、今年も支援が続けられます。しかし、もう震災から4年と半年が過ぎました。多くの方々が、今も仮設住宅に住み続けておられます。安渡はまだ復興していません。どうぞ、お祈りください。どうぞ、忘れないでください。

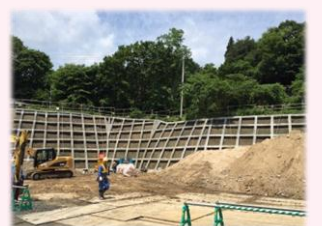
(盛岡教会 大須賀 綾子)



2011年7月の炊き出し



2014年安渡小学校解体工事



2015年安渡小学校跡

4年ぶりに安渡を訪れて



2015年6月12日、安渡公民館のカフェに参加させていただきました。安渡地区を訪れたのは、2011年7月以来でした。4年前と比べて主だった変化は、小学校の建っていた場所が更地になり、仮設住宅にかなり近接した場所で造成工事が行われていたことと、当時に比べ、住民の方もボランティアも随分少なく感じたことでした。事前に綾子先生から、「今日のカフェのテーマは、『お話を聴きする』ことです」とお話があったので、何か特別なことをするのではなく、住民の方と一緒にお茶やお菓子をいただきながら、お話を聴かせていただきました。顔馴染みの方を中心に30名程集まれ、和気あいあいとした空気の中に、住民の方と盛岡教会員、牧師家族との間に年月を通じて築かれた信頼関係があることを感じました。震災当時小学2年生だった大須賀安里さんは、随分背も伸び小学6年生になりました。「みんなで、安ちゃんのバイオリンを聴きましょう！」との館長さんの呼びかけの後、安里さんの奏でるバイオリンの音色に、住民の方々が、目を細めて静かに聴き入っておられました。

また、館長さんから参加者の方々に、「他の地区で喘息が原因で亡くなった方がいます。喘息の原因はカビです。皆さん、くれぐれも喘息にならないよう、カビに注意してください」という呼び掛けがありました。以前からニュースでも、仮設住宅のカビや湿気による健康被害や建物の腐蝕などが問題になっていましたが、現在、安渡は新公民館建設の工事中で、日中は騒音と土埃のため、こまめに換気できないという課題を目の当たりにしました。この夏も、住民の方が体調を崩されないようにと神様に祈るばかりです。当時はたくさん来ていた支援団体の中で、現在も支援が続いているのは、1つのNPO法人と、私達バプテスト連盟を含む3つのキリスト教団体のみだそうです。館長さんのお話から、私達の支援を大切に思い、関係の継続を強く願っておられることがよく伝わりました。改めてこの4年半の全国バプテスト連盟諸教会の熱い祈りとお支えを感じました。

どうぞ、安渡地区に住んでおられる皆様のご健康と今後の生活のためのお祈りとあわせて、毎回の支援の準備を整えボランティアを受け入れておられる盛岡教会の教会員の方々と大須賀牧師のご家庭のために、また現在共に働きを担っておられる山形教会、郡山コスモス通り教会のためにも、引き続きお祈りに覚えていただければ幸いです。

(現地支援委員会 広報担当 牛木 さくら)